

2期目の町政執行にあたって

置戸町長 深 川 正 美

本日ここに第5回町議会定例会の開会にあたり、私の2期目の町政に対する決意と所信を申し上げ、皆様のご理解とご協力をいただきたいと思います。

このたびの町長選挙におきまして、町民の皆さんの温かいご支援をいただき、無投票当選の栄に浴させていただきました。引き続き2期目の町政をお預かりすることになり、誠に光栄であるとともに、改めてその責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私は、この4年間、町民の皆様とともに幸せを実感できるまちづくりを念頭に、「まちづくりは、人づくり」を基本理念として掲げ、まちづくりを進めてまいりましたが、2期目を迎えた今も、全く変わる事のない私の町政に対する原点であります。

少子高齢化・人口減少社会が到来し、産業分野に限らず、福祉や医療を含めて人材確保が全国共通の課題となり、まさに「人づくり」が地域社会を維持するためには必須の要件であると確信しております。

この4年の間には、新型コロナウイルス感染症対応を最優先に置戸赤十字病院と連携した感染予防対策を進め、停滞する消費経済対策として商品券の配布などを実施するとともに、光通信網の未整備地域への整備や公民館等への非常電源設備の整備、勝山温泉ゆーゆにトレーラーハウスを導入、さらに勝山郵便局舎の公民館移転やAコープおけと店内の設備更新に対する支援など、地域の皆さんや関係各位にご意見をいただきながら、臨機応変に対応した施策を展開することができました。

初心を忘れず、未来に向かって確かな「決断力」と「実行力」を持って、引き続き5つの目標を掲げ、笑顔あふれる住みよいまちづくりを進めてまいります。

はじめに、「健康で幸せを感じられるまちづくり」ですが、

永く健やかに暮らすことができるまちづくりが重要です。置戸赤十字病院や歯科診療所など、医療機関と地域福祉センターとの連携強化によって健康相談や健診、予防接種の普及の充実を図るとともに、キッチン木の実等への支援を通して、障がいのある方の社会参加と就労機会の充実を図ってまいります。

また、少子高齢化が進んでおり、子育て環境の充実が極めて重要であることから、認定こども園こどもセンターどんぐりの運営支援と、保護者の負担軽減を継続してまいります。

医療施設や介護施設においても、深刻な人材不足となっていることから、外国人を含めた人材確保に向けた様々な取り組みを進めるとともに、養護老人ホーム及び特別養護老人ホームは開設からかなりの年数が経過し、施設の老朽化への対応が急務であることから、指定管理者である社会福祉協議会との十分な協議を重ね、施設の移転改築計画策定に向けた検討を進めてまいります。

近年、夏の暑さが厳しくなっており各家庭における熱中症のリスクも高まってきていることから、高齢者が暮らす住宅へのエアコン設置費用に対する助成制度を創設いたします。

2つ目に、「住んでよかったと思えるまちづくり」ですが、

老朽化が進む道路や橋梁、町営住宅、下水道施設など、長寿命化に向けた計画的な改修を実施してまいります。

住宅の新築や改修に対する補助につきましては、高騰する費用の状況や脱炭素への取り組みなどを勘案した制度の拡大や、町内の住宅ニーズを考慮して、空いている町営住宅等の有効活用を図るため、入居要件の緩和も検討してまいります。

唯一の公共交通機関である北見バスについては、路線維持に向けた支援を進めるとともに、高齢者の日常生活に必要な移動手段としてハイヤー利用料金助成制度の推進を図り、利用状況に応じで見直しも検討してまいります。

また、町内で食料品や日用品などの買い物が困難にならないよう商工会や各店舗と連携し、安定した供給体制づくりに努めてまいります。

置戸赤十字病院や歯科診療所などの医療機関に対する支援を行い、地域福祉センターとの連携強化によって、子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域医療の充実を図ってまいります。

また、少子高齢化による核家族化が進んでおり、お墓の管理に悩まれる方も多くなっていることから、納骨方法の選択肢の一つとして合葬墓の整備に向けた検討を進めてまいります。

大正4年に野付牛村から分村した本町は、令和7年には開町110周年を迎えます。多くの町民の皆さんとともに節目の年をお祝いするよう記念事業等の実施に向けた準備を進めてまいります。

3つ目に、「元気で活力あるまちづくり」ですが、

本町の基幹産業である農業と林業の振興は、元気で活力あるまちの原動力であります。多様で足腰の強い農業経営体の育成や高

性能林業機械等の導入促進、様々な課題解決に向けた産業会議の開催など、より一層の産業振興を図り、後継者や担い手の確保に努めてまいります。

商工業の振興では、空き店舗の利活用やリノベーションを進めるとともに、商工業者の店舗改修支援制度の拡大を図り、商店街の維持や町内消費喚起策の強化を図ってまいります。

また、昨年度、誕生40周年を迎えたオケクラフトは、おけと森林文化振興協会への支援を通じて販売と流通の拡大を図るとともに、新たな特産品開発に向けて取り組んでまいります。

地域おこし協力隊は、今後も積極的な採用を行い、卒隊後の定住に向けた支援や取り組みを進めるとともに、協力隊事務所に、おけとの魅力発信基地や移住相談窓口としての機能を持たせ、協力隊員の活動を通じた移住促進を図ってまいります。

令和3年10月から、ふるさと納税返礼品を導入し、今日まで全国の方々から多くのご寄附をお寄せいただいておりますが、今後も返礼品の充実を図り、より多くの方々に応援していただけるよう取り組んでまいります。

また、依然として厳しい財政状況を考慮し、財源確保のための行財政改革を推し進めてまいります。

4つ目に、「子どもたちが大人になっても自慢できるまちづくり」ですが、

これまで検討を進めてまいりました、子どもたちの居場所となる児童館の建設に向けた実施設計に着手いたします。

未来を担う子どもたちに、町の歴史や文化に触れるふるさと教育の推進と、学習支援員や特別支援員を配置して学習環境の充実を図るとともに、各地区公民館をそれぞれの地域活動の中心となるように、また図書館を積極的な情報発信や課題解決に応えられるように施設の利用拡大を図ってまいります。

本年、入学者数が10名を下回った道立高校唯一の福祉科設置校である置戸高等学校の存続に向け、支援対策協議会と連携した取り組みを強化してまいります。

5つ目に、「自然と調和するまちづくり」ですが、

本町は、昨年3月にゼロカーボンシティ宣言を行い、再生可能エネルギー導入戦略を策定いたしました。脱炭素社会の構築を目指し、公共施設への太陽光パネルの設置や省エネ化、蓄電設備の設置を進めてまいります。

また、一方で町有林の伐採から再生林へと循環型林業を促進し、

森林が有する多面的な機能の維持と環境保全を図るとともに、緑と清流の町として、河川や川辺の環境保全にも努め、美しい景観を後世に残す取り組みを進めてまいります。

昨年度に策定した空家等対策計画を踏まえ、空き家バンクの取り組みを通じた空き家の利活用の促進を図り、景観上問題となるような老朽家屋等への対応についても取り組んでまいります。

毎年、全国各地で甚大な自然災害が発生しており、決して他人事ではなく、本町においてもあらゆる災害に対応できる体制づくりが極めて重要であることから、各消防団はもとより地域や自治会単位での自主防災組織の結成や活動への支援を進めるとともに、職場や学校、地域における防災訓練を実施してまいります。

また、日常のあらゆる事態に備えるため、消防団員の確保と消防車両や装備の計画的な更新を図り、消防力強化と災害に強いまちづくりを進めてまいります。

以上、就任のご挨拶と、2期目に向けた私の町政に対する所信の一端を申し上げました。町民と行政が一体となって、「笑顔あふれ、住んでみたい、暮らし続けられるまち」の実現に向け、自らが先頭に立って真摯に町政に取り組んでまいりますので、町議会議員と町民の皆さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。